



善正寺だより

掲示板法話

和讃の歌声は

温かい連帯感を取り戻す源泉となる

名古屋で「本願寺展」が開催(4・18〜5・31)され、本願寺御影堂の平成大修復が完成し、慶讃法要が去る五月二日から二六日までにぎやかに御修行になった。親鸞聖人の七百五十回大遠忌法要まであと二年、我々は五十年に一度のこのご法縁をどのように受け止めたらよいのだろうか？

小生は昭和三十六年春のことをよく覚えている。高校入学の直前に自坊の七百回大遠忌法要が勤められたので、三日間得度前の無免許運転しながら、全座礼装でお勤めに加わった。門徒の方々から温かく誉められた記憶が懐かしい。しかし、五十年前の熱気に比べて世の中の雰囲気がいささか一変した。勿論、「本山は盛大にお勤まりになるだろうが、地方、特に過疎地域において五十年前のように行かないのは疑いなし。限られた日時の大法要よりもむしろ、「親鸞さまの願い」が、この大変な時代に苦しむ庶民にいかにか響くのか、が問われている。

人一倍現状を憂えておられるであろう「門主さまからの一つのメッセージに

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:0593-31-1670
☎:0593-32-0733



注目したい。「ハンドルとしての教えでなく、エンジンとなる教えを」ということである。「エンジン」とは「立ちすくむ人々に「本願の呼び声」が響き、生きる力となることであらう。

どうすれば願いが生きるエンジンとなるだろうか？今回制定された「宗祖讃仰作法」というお勤めは、従来の漢文のお勤め一辺倒から様変わりし、「和讃」を軽やかな節でお勤めする様式へと大胆な改革がなされている。親鸞聖人は晩年、七十五歳から八十五歳の間に五百四十首に上る「和讃」を懸命に制作された。当時流行歌のように庶民に歌われた七五調の今様の形式を取り入れて、苦しみをたえる人々にこそお救いの声が届くようにと願われたのではないかと想像される。

コーラスの練習の場でこの「宗祖讃仰作法」(音楽法要)を覚えた私は、鼻歌のように軽やかに「和讃」を口ずさむとき、気持ち軽やかになる。大勢一緒に歌えばさらに喜びが増す。五木寛之さんは「悲しいときには悲しい歌を歌うとよい。嬉しいときには喜びを表す歌

を歌うとよい」と言っている。弥陀の本願信ずべし、本願信するひとはみな、撰取不捨の利益にて、無上覺をばさとするなり(正像末和讃)

この和讃は、聖人八十五歳、二月九日の明け方、夢のうちに感得され、夢中で書き記したといわれる。前年五月、長男、善鸞義絶から八ヵ月後の出来事だった。この和讃を歌うとき、聖人のお心が胸にずしりと響く。悲しみの中にこそ、弥陀の本願がお働きくださるのだと胸に迫るようである。親鸞聖人の願いやお心は、このようにして長い歴史の中で人々の心に浸透し、生きるエンジンとなっていたのではないだろうか。

今我々に必要なのは、歌声などによ

☆行事ご案内☆

◇6月15日(月)午前10時・午後1時 三重組仏教講習会(中川清昭先生)

※10年に1度、会所が当たる大行事！3日連続研修の中
※6月の門信徒会例会は仏教講習会のお聴聞に充てます。
門信徒の皆様、どうか万障繰り合わせて、お参り下さい！
6月より新体制のスタッフ。役員さん、行事さんよろしく！

♪三重組コーラス♪

※6/4(木)午前10時半・陽光苑お誕生会慰問 29回目
※6/27(土)夜7時半、小杉練習「光あふれて」
※7月2日(木)名古屋別院東海音楽祭募集中！バス昼食費3千円
8時小杉、8時半桜バス、コーラス服、数珠、講師花月真先生

◇キッズサンガ

6/20(土)午後4時、今月は都合で第3土曜日、お経、ゲーム、
※毎日夕方5時の鐘撞きは誰でもつけます！年中無休です
ご褒美ガムや飴が大人気！放課後、境内や卓球場は絶好の遊び場
◇一縁会テレホン法話059・354・14543分間法話聞けます

※三重組連研受講者募集中！7/27スタート毎月27日、連続15回開催、仏教を学んで人生を見直してみませんか？

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索OK新着情報や『住職と坊守のつれづれ日記』おススメ！ほぼ毎日更新！

何でもご相談お気軽に。仏事以外のことでも結構。お返事します。



5時の鐘撞きの子供達と三十年間小学校の草取り
専任作業のHさん、感謝！

り、深く温かい連帯感を取り戻す機会を大胆に開拓することではないだろうか。

キッズサンガ・杉の子合唱団
◇六月二十日(土)午後四時より
お経・ゲーム・紙芝居。今月は第三土曜日、間違えないように。お友達誘って来てね！夕方五時の鐘撞きは毎日。

坊守スケッチ

『がんと向き合って』を読んで

先日『がんと向き合って』(上野剣著)という本を読んだ。上野氏は朝日新聞の記者。二十六歳の時、睾丸に悪性腫瘍があると告知され、手術を受けた。がんはすでに肺全体へも転移していた。心配なのは恋人のこと。三歳年上で同僚の彼女の方から「私が付いているから大丈夫!すぐに結婚しよう」と告げられ入籍。その後超大量の化学療法、無菌室での孤独な闘い、抗がん剤の副作用、二度の再発、三度の肺手術など、三年間に渡る闘病生活を送った。十年後の現在は、無事職場復帰している。この体験を新聞連載し、大反響を呼んで一冊の本にまとめた。

上野氏はそれまではスポーツマンで、新聞記者としてバリバリ仕事ができ、自信に満ち溢れた生活をしてきた。突然がんを告知された時「自分は試されているのだ」と思った。「最初は、それならば乗り越えてやろうと戦闘的なところがあったが、次第に努力だけではどうにもならないことを痛感。弱い自分、他人を恨むズルイ自分と正面から向き合った。次第に戦闘モードも薄れ、苦しみの余り、何度も自殺したいという思いに駆られた。思い留まされたのは、自分の死を悲しむ妻や両親、友達のことを考えたからだ。」

つまり日頃から、自分に寄り添ってくれる人間関係を築いてきた人は、異常

な精神状態の中でも、ブレーキが効く。上野氏の奥さんの手記が感慨深い。「夫はがんになって初めて死と向き合った。それまでは三人称(他人事)だった『死』が、一人称(我が事)として受け止められた。私も、彼に寄り添って、限りある二人の時間を大事に紡いでいきたい。」

上野氏は「死を想う病気になる」と幸せのハードルが低くなる」と言う。「健康な時は、あれもしたい、これもしたいと欲張ってみるが、死に直面すると、何気ないささやかなことさえも有難い。『何歳まで生きたら満足か?』と聞かれるが、人生は時間の長さで測れない。今日まで生きて良かったと思える瞬間が、長生きした喜びである。」

死線の淵を何度も迷った人の言葉は、私達の心に届くもの大きい。『往生際の達人』の上野氏が、入院中一番心に響いた記事が、大事件を報道するニュースではなく、いろんな人生が凝縮された『声』欄だったそうだ。生きる人の肉声を通した温か味が伝わるからだ。私達が使う仏教語も、自分の人生のフィルターを通して味わいたいものだ。それにしてもがんを『一人称の複数形』(私達の事)と受け止める夫妻の愛情に感動を覚えた。

私がどうしてこの本を読んだかというと、私の友人も、現在がんで苦し



んでいる。彼女の悩みを我が事として受け止める『寄り添い人』に、私自身がなれるかどうか、試されているような気がする。

☆寄稿

四日市市 川崎 孝一

☆門花で 日々の供華との 価値観で

喧嘩できるも 二人ならでは

☆花粉症 全く知らず 幼日の

撃ち合う遊び 杉の実鉄砲

☆売らんかな 地元産物 種々雑多

宿はフロアに ミニ市の立つ

四日市市 釈 弘 蓮

☆仏・法・僧に 見守られ

感謝・感謝と呼吸する

四日市市 釈 恩 厚

☆垂坂山 夫に誘われ 歩く径

『光あふれて』を 暗唱しつつ

☆リハビリに 誘われ歩く 垂坂山

コーラスの歌 口ずさみつつ

☆カンパ有難う☆

F・K様、芝田きよ様・他匿名様、切

手、お志有難うございました。

☆コーラス♪

※六月四日(木)午前・陽光苑お誕生会

(二十九回目) 慰問

※六月二十七日(土)夜練習

◇七月二日(木)名古屋別院音楽祭

「光あふれて」三重組単独ステージ歌

8時小杉、8時半桜バス、出演者募集中、

参加・交通費三千元、

☆ホットニュース☆

☆善正寺新スタッフ紹介(敬称略)

(総代)◎山本守・伊崎幸雄・館十三生

(特別会計)館勤(世話方)館久夫・川崎

勉・館司朗・館国治・館勇次・服部則

男(顧問)伊崎栄一・伊藤正雄

(2009年度門信徒会長)服部信也

(会計)森行雄(婦人部)館澄代

以上の皆さんが選出されました。どうかよろしく願います。

☆六月十五日(月)午前十時・午後一時

三重組仏教講習会(講師中川清昭)

十年に一度、会所が当たる大きな行事。

六月の例会(夜)はこれに充てます。

皆さんお誘いあわせてお参りを!

☆揭示伝道ポスター標語募集。好きな

言葉、心に響く言葉一人一件。締め切

り六月三十日。入選作はポスターに。

☆三重組連研受講者募集!毎月二十

七日、連続十五回開催。締め切り六月

末。七月二十七日よりスタート!

☆善正寺のホームページが公開!仏事に

関する相談、お悩み等気軽に。「三重

善正寺」で検索可。

※「住職と坊守のつれづれ日記」がおスス

メ、好評!ほぼ毎日更新。おかげさまで

開設九か月、アクセス数が七千回を突

破!今までお寺と縁がなかった方や

若者、子供の訪問に感謝。

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」第百八十六号をお届けし

ます。◇梅雨の季節、「雨の日には雨の日の

生き方がある」という東井先生の言葉があ

る。不安感が蔓延する今日、生きる力を回

復するヒントになるかもしれない。合掌。

六月の第三日曜は父の日です。一家の大黒柱のお父さんに感謝する日ですが、日本では父親にプレゼントする日のように思われています。お父さんの10か条凸という言葉をご存知ですか？ スゴレ家庭教育振興協会会長の永池栄吉氏が提唱されました。

①朝は必ず家族中に挨拶する②パートナー(妻)の長所をほめる③子供の言葉を大切にする④子供の長所を把握する⑤子供の叱り方を工夫する(逃げ道)⑥父親としてのこだわり(人生哲学)を語る⑦自らの仕事の意味、意義を語る⑧家族と一緒に食事をするように努める⑨パートナー(妻)の相談に向き合う⑩子供と共に社会体験を心掛ける以上の10か条はお父さんに望む理想の父親像です。以前の日本の家庭は粘土のように人間関係が密でしたが、近頃では個人主義の影響で砂のようにサラサラ、これが家庭崩壊の原因にもなっています。

周囲を見回してみても、便利でせいたくなく生活に慣れ親しんでいますが、少しも幸せで満足な顔をしていません。年々で他人を傷つける言葉を使い、群れることで表面的には繋がっていますが淋しい人が多いのです。父の日には「お父さんの10か条」を思い出して、自分にできることから実践してみましよう。きっと何か変わる筈です。百年に一度の経済危機に直面している今、家族の絆を再生して生きる情熱をもって、厳しい時代を乗り越えましよう。六月は十年に一度の大きな行事があります。六月十五日(月)午前・午後三重組仏教講習会(川清昭師)皆様のご参詣お待ちしております。

平成二十一年六月善正寺方守拝

合掌